



谷口 和弥
議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問

いじめ根絶に向けた対策は

答

いじめを見逃ごさない意識や実践力の育成に取り組んでいる

問

滋賀県大津市立中学校の男子生徒の自殺事件を契機に、いま、いじめ問題があらためて国民的問題となっている。いじめによって子どもが命が失われることに多くの国民が胸を痛めている。本気でいじめ問題に取り組み、子どもが安心して生きられる学校、地域、家庭を作っていくなければならない。

幕別町においては、「幕別町いじめ問題等対策委員会」の設置、「幕別町子どもの権利に関する条例」の施行など、さまざまな取り組みがされているところであるが、以下の点について伺う。

① いじめの認知件数とその内容について。
② 未然防止・早期発見のための対策といじめ認知後の対応について。
③ 教員が子どもと向き合う時間を十分確保できるような環境づくりが必要と考えるが、教育現場はどのようなになっているか。

教育長

①小中学校いじめ認知件数	
平成21年度	2校3件
平成22年度	5校13件
平成23年度	2校6件

①いじめの内容（平成23年度）	
冷やかしの言われ、悪口や嫌なことを言われる	4件
仲間はずれ、集団による無視をされる	1件
ランドセルの中に入られるなど、嫌なことをされる	1件

④ 学校評価や教員評価といった評価制度をやるべきと考えるがどうか。
⑤ いじめ根絶に向けた地域社会づくりをどのように行っていくか。

② 教職員には子供たちの小さな変化を見逃さない感性・洞察力が必要であり、地域と連携し情報の共有や相互に協力できる体制の構築、児童会・生徒会活動等を通していじめを見逃ごさない意識や実践力の育成などの取り組みで未然防止

早期発見に繋がると考えている。

いじめへの対応は、一度の指導によって事象が完全に解消したと安心することなく、いじめ解消に向けて注意深く徹底した指導と見守りを継続することを行っている。

③ 教員が子どもと向き合う時間を確保できるよう、事務事業の効率化や人的配置などの環境づくりに取り組んでいる。

④ 評価制度については、今般求められている学校改善や教員の資質向上に役立つものと認識している。
⑤ 「こども110番の家」の新たな協力の呼びかけや、少年団活動が活発化することが子どもたちの心を育てることにつながるものと認識しており、今後も、団体等への支援を図ることで、地域全体でいじめ根絶と健やかな子どもの成長につながるしていきたい。

再質問

① 文部科学省はいじめの把握件数には地域差があるとの指

摘をしている。町ではいじめをどのような手段で認知し、カウントしているか伺う。
② 町におけるいじめの認知件数は、一般的に考えて少なすぎるように思うが教育委員会ではどう考えているのか伺う。

答① 本人が物理的・精神的な打撃を受けたと思われるもの、判然としない部分は教職員が協議をして相当すると思われるものについて報告されている。

② 集計を行っているが、全部を把握し、いじめが全くないとは言えないものではないと思っている。



こども110番の家(寿町)